

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100333		
法人名	株式会社リブレ		
事業所名	グループホームリブレ松川 かえでユニット		
所在地	福島市松川町美郷4-13-8		
自己評価作成日	令和3年3月11日	評価結果市町村受理日	令和3年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和3年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域とのつながりを大切にし、オレンジカフェの開催、松川地域のSOSネットワーク訓練参加など、複合施設全体で取り組んでいる。

・センター方式を用いたアセスメントにより、より深く利用者を理解し、その人らしさを大切にしたい支援ができるよう取り組んでいる。誕生会は誕生日当日に行い、本人の食べたいメニューにするなど、利用者が主役になれる、自己決定できる場を作っている。コロナ禍により家族や地域の方を招いての行事開催が難しい状況であるが、ユニット単位で季節ごとの食事を楽しむ行事や、複合施設内での夏祭り開催など、感染予防に配慮しながらできる方法を考え、日々の暮らしを楽しんでいただけるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度末の勉強会で、前年度の理念を振り返りケアに活かしていたか話し合っている。今年度の反省を踏まえ、利用者の思いをくんだ関わりができるよう 理念を作成している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オレンジカフェ、近くの公園へ散歩した先での交流など地域の方とふれ合い、つながりを持っていた。散歩で出会うときは挨拶を心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敷地内掲示板での認知症に関する情報の掲示、各種研修会の案内、オレンジカフェの開催の案内をしている。松川地区認知症SOSネットワーク委員になっており会議に出席し施設での取り組みを話す機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を開き地域包括支援センター、GH協議会会長に参加していただき話し合い、意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことがある時など連絡をとり相談・助言していただいたり、情報収集している。コロナ関連の感染防止対策巡回指導では疑問点を質問し今後のケアに活かせる意見をいただいた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月ごとの身体拘束・虐待防止委員会の開催や研修会参加により理解を深めている。日中は施錠を行っていない。スピーチロックにならないよう意識した声かけをみんなで行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会の開催や研修会参加により理解を深めている。職員間で注意しあえる関係づくりができるようミーティング等で話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修等で制度について学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前には必ず見学をしてもらい、ユニットの雰囲気や環境を確認してもらっている。契約を行う際にも、十分な説明を行い不安や疑問点が残らないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	状態の変化があった時は、すぐに電話等で連絡を入れて情報を伝えている。コロナ禍により面会がなかなかできない状況となったが、利用者、家族からの要望がありベランダ越しに顔を合わせられるような対応をしたり感染予防対策による面会も支援した。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の面談や職員会議を通じて疑問・提案等を話し合い意見要望を聞いている。職員会議やユニットカンファレンスの際に意見交換を行い反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自主的な外部研修への参加、月1回実施している勉強会への参加など、自主性を大切にしている。年2回人事考課などによる面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や毎月の勉強会など自主的に学んでいけるような機会を確保している。資格取得応援制度があり、無資格者は介護職員初任者研修を無料で受講できたり、介護福祉士や介護支援専門員受験に向けた勉強会などを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北地区グループホーム協議会に入っており、外部研修や会議等で交流する機会がある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を用いて生活歴や既往歴などを把握、本人の思いや言葉に耳を傾け、安心して生活が送れるよう努めている。入居前の事態調査時など本人とお話する機会を設け、思いや要望を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず面談の時間を設け、困っていることや不安に感じていること、要望等を聞き取り、安心してサービスが受けられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何が必要か考えながら、本人を含め家族へも負担がないような話し合いの機会を大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの歩んできた人生を大切にし、人生の先輩として敬い、今まで培ってきた知識や技術を職員に教えていただきながら共に支え合っている。若い職員はよく料理を教えてもらって尊厳を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や面会等、家族と一緒に過ごす時間を大切にしており、生活の様子が分かるように写真を見ていただきながら様子を伝えている。コロナ禍で外出や面会も難しいが随時様子を伝え家族の意見を尊重している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍以前は家族だけでなく親戚が訪れたり、自宅に外泊したり、それぞれが心許せる人、場所を行き来できていた。今までどおりにはできないこともあるが関係性が途切れないよう努めている。スマホやタブレット使用でオンライン面会をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内の好きな場所でくつろぎながらおしゃべりしたり、一緒に作業ができるよう職員が間に入りながら関わられるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が亡くなられたり、他施設へ移られても相談を受けられる体制を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で思いや暮らし方の希望、意向を把握するよう努めている。またケース記録などに記入しケアプランに反映させている。困難な場合でも家族に相談したり、表情や行動、しぐさなどサインを見逃さないよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式で情報収集したり、日々のコミュニケーションの中でご本人からの言葉や、ケアの中の気づきからの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者様の担当職員がおり、現状把握に努めている。日々のケース記録、日誌での申し送り、ヒヤリハットの記入などを行い、カンファレンス等でスタッフ全員と共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族などとの日常の関わりから聞き取った思い、要望、介護職員や医療関係者が日々のケアでの気づきをセンター方式のシートに記入し、ケアプランに反映できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入する際、何についての記録か分かるよう項目分類(例 H→体調 など)を記入し、ケアの見直しに活かせるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢者複合施設の強みを活かし、ユニット内だけでの対応にとどまらず、他事業所とも連携しながら対応出来るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しへの参加や近隣への散歩に出かけることで存在を知ってもらい、施設周辺の清掃、草刈りなど町内会の日時に合わせ参加している。コロナ禍により交流機会が少なくなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所契約時に家族と面談し、協力医療機関からの回診、月1回訪問診療医が来る方、家族がかかりつけ医に通院する方などそれぞれの状況に応じた医療が受けられるようになっている。通院する際や急変時は状態を主治医に報告できる体制をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の訪問看護師が週1回健康チェックに入っており、体調面での変化などいつでも相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も家族だけにお任せせず、同行し、医師からの説明を一緒に聞き、退院後のホームでの生活が安心して送れるよう指示、助言をもらっている。入院時には基本情報の提供をMSW等に行い、顔つなぎをしこまめに連絡をとるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に看取りについてのインフォームドコンセントを書面で確認している。また、状態が変化した際は早めに家族の思いを確認、把握できるようそのつど意向を聞き、主治医や訪問看護からの指示、助言、事業所でできることを伝えながら本人、家族にとって満足できるような支援を心掛けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内緊急連絡網を作成し、急変時など職員の応援体制を整えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回 避難訓練を実施している。避難訓練後は利用者を交えて反省会を行い、次の訓練に活かせるようにしている。地域の方に緊急連絡網の登録に協力を頂いたり、運営推進会議に合わせ訓練を実施し自治会長に避難訓練への参加をしてもらっている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として一人ひとりの思いを尊重した肯定的な声かけを心掛けている。言葉遣いについては馴れ合いにならないよう特に意識している。身体拘束防止・虐待防止の勉強会を開催し、ケアを振り返り日々のケアにいかしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しませんか?」「どちらがいいですか?」といった聞き方で自分で決めやすいよう配慮している。普段の関わりの中で何でも話してもらえるような雰囲気づくり、傾聴を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、その時の環境や心身の状況により変化する要望、希望を聞き取りながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容・美容に来てもらい個別の身だしなみを支援している。毎日の更衣も自分で好きな衣類が選べるような声かけを行い、おしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜の皮むき、切り出しや茶葉の袋詰め、盛り付けなどできる作業をお願いし、一緒に行っている。家族等から頂いた野菜や中庭でプランター栽培した野菜を収穫しメニューに取り入れて旬の物をおいしく頂き、会話のきっかけを引き出すようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェック表に記入し、1日を通して摂取量が確保できているか確認している。個々の状態に合わせ食事の形状、トロミ、配膳の工夫でしっかりと摂取できるようにしたり好みを把握し、好きな飲み物がいつでも飲めるように準備している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけし、洗面台で歯磨きをしている。自分では難しい部分は職員が手伝い、残渣物が残らないよう確認している。拒否がある場合は少し間を開けて再度誘ったり、うがいだけにするなど柔軟に対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表、夜間記録等で個々の排泄パターンを確認し、その方にあったパットの使用、トイレの声かけ誘導を行っている。トイレという言葉かけは行わず、行動を見守りさりげない誘導、介助を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は不穏の原因にもなるため排便状況確認し早めの対処をしている。日常的に繊維質の多い食材使用、朝の飲み物にファイバー、カスピ海ヨーグルトとオリゴ糖の組み合わせ、適度に体を動かせるよう体操をしたり自然排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別の希望や心身状態に合わせ、午前・午後と入浴対応している。拒否がある時は無理強いせず時間をずらしたり誘う職員を変えながら促し、場合によってはシャワー浴・手浴・足浴・清拭で対応し清潔が保たれるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の心身状態を見極め、活動と休息のメリハリをつけている。日中は外気に触れることを心掛け、日光を浴びるようにしている。座りっぱなしにならないよう足を挙上したり居室で横になってむくみ軽減に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんファイルに情報を綴り、すぐに確認できるようになっている。変更時は日誌にて申し送りし情報共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の支度、掃き掃除、野菜の手入れ、草むしりなどこれまでの生活歴の中で慣れ親しんできた役割ができるよう準備、一緒に行っている。食べる楽しみ、のんびりが好きなど個々の好みに合わせた支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前はドライブに出かけたり、道の駅に立ち寄り好きなおやつを買って食べたり、気分転換も兼ねた外出ができていた。今は外食に行きたいと希望される方がいるが対応が難しい状況がある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方や預かっている方はいないが個人で欲しいものがある時は家族と相談しながら購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出があれば事務所の電話や公衆電話を使用し家族にかけることができる。家族からの手紙は本人に手渡し、読んであげたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は和室やフロアで過ごす方が多いので温度湿度をチェックし利用者に確認しながらそのつど冷暖房の調節、換気をしている。灯りの色を調節したり、目に入る位置にトイレの表示をしている。散歩中に摘んだ花を飾ったりし見て楽しめるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室内にソファが2台あり、好きなところに座って寛げるようにしている。また廊下奥のベンチやユニットから出た廊下にもソファスペースがあり、一人静かに過ごして頂けるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	何もない状態の居室にベッド、タンス類、時計など自宅で使っていたなじみのものを持ち込んでもらい分かりやすいようにレイアウトしてもらっている。一人ひとりの暮らしやすさを重視し作業する方は机を置いたり、テレビを置いて見ている方がいたり一人一人の希望を取り入れ、居心地の良い居室作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内は一人で移動しても安全のように整理整頓し、トイレは見て分かりやすい表示がされている。		